

## ■選手と記念写真も。「ポテトボウル」を開催

体の不自由な人たちにもアメリカンフットボールの魅力を知ってもらい、合わせて関係者の善意も募る第52回肢体不自由児者チャリティ・アメリカンフットボールゲーム「ポテトボウル2025」が8月31日、札幌市円山競技場で行われた。第51回北海道学生選手権の第2節2試合が冠試合となり、招待された車椅子などの4人と家族らが選手たちと交流し、熱いプレーに見入った。

ポテトボウルは、北海道肢体不自由児者福祉連合協会の協力を得て、北海道アメリカンフットボール協会が特別後援、北海道学生アメリカンフットボール連盟が主催する。1978年の第5回からチャリティゲームになり、会場での募金と北海道アメリカンフットボール協会からの寄付を合わせて、昨年までの47年間で1699万円余りの善意が北海道肢体不自由児者福祉連合協会へ贈られている。

フットボール日和に恵まれた31日は、招待された30代と40代の男女4人が家族らとともに北海道肢体不自由児者福祉連合協会の職員の引率で来場した。第2試合の開始前にはセレモニーも行われ、ユニホーム姿の北海道大と室蘭工業大の選手たちと一緒に記念写真を撮影した後、車椅子の参加者たちが北海道大の里見佑三監督と室蘭工業大の半沢伸太郎監督へ花束を贈り、両氏から寄付金の目録を受け取った。第2試合が始まると招待者たちは、本部席から観戦。思い思いに試合の熱気を味わっていた。

(学連広報委員 塚田博)



【写真】ユニホーム姿の北海道大と室蘭工業大の選手と一緒に記念写真に収まる招待者たち（前列中央）